

管 区 事 務 所  
〒162-0805  
東京都新宿区矢来町65番  
電話 (03)5228-3171  
FAX (03)5228-3175

日 本 聖 公 会

NIPPON SEI KO KAI

PROVINCIAL OFFICE  
65, Yarai-cho, Shinjuku-ku  
Tokyo 162-0805, Japan  
Tel. 81-3-5228-3171  
Fax. 81-3-5228-3175

2012年11月2日

内閣総理大臣 野田 佳彦様  
外務大臣 玄葉光一郎様  
防衛大臣 森本 敏様

米国大統領 バラク・フセイン・オバマ Jr. 様  
駐日米国大使 ジョン・ルース様  
在日米軍司令官 ダン・クロイド様

**止むことなく繰り返される米兵による性的暴力に強く抗議し、  
米軍基地の撤去を求めます。**

わたしたちは日本聖公会に連なる者として、イエス・キリストの教えに従い、一人ひとりのいのちが尊ばれる社会の実現のために、心を合わせて祈り活動してきました。ことに、これまで沖縄の視点から平和の学びを進めつつ、沖縄の米軍基地をめぐる現状に多大な関心を寄せてきました。

さて、2013年10月16日午前3時35分頃、沖縄県中部市で、米海軍の上等水兵、同三等兵曹の2名が、帰宅途中の日本人女性に性的暴行を加え、集団強姦と致傷容疑で沖縄県警に逮捕されました。卑劣きわまりない性的暴力が、またしても現役米軍兵士によって引き起こされました。わたしたちは、被害にあった女性の耐え難い恐怖と哀しみと深い傷を思い、激しい怒りをもって抗議します。

この事件に先立つ今年8月にも、那覇市内で米海兵隊員による強制わいせつ傷害事件が起こっており、沖縄県知事が県内27市町村の代表らとともに、藤村修官房長官、ルース駐日大使らに米軍人による事件の防止を申し入れたばかりです。事件のたびごとに綱紀肅正という虚しい「反省」が表明されます。しかし止むことなく事件は繰り返されています。私たちは、軍事基地の存在そのものが犯罪の元凶であるという本質を隠し続けようとする日米両政府に強く抗議するものです。軍隊は人を人とは見なさず、ためらいなく人を殺すことを目的とし、軍事基地はそれを日々訓練する暴力の装置です。軍事基地がある限り、市民の日常生活は脅かされ、中でも一番の犠牲となるのが、女性や子どもたちです。沖縄で繰り返される米軍犯罪の背後には、差別と人権侵害、植民地意識があります。女性と沖縄への差別やこれらの犯罪を、わたしたちは「人間の尊厳を踏みにじることは神の創造を傷つける罪である」と信じる立場から見逃すわけにはいきません。

10月1日には、沖縄県民がこぞって反対しているオスプレイの普天間基地配備が強行されました。地元自治体と県民の反対への強い意思を全く無視し、オスプレイ配備を強行したこと自体が沖縄への差別の現れです。この間相次ぐ米軍犯罪が、こうした沖縄県民の意思を顧みない政治と無関係であるはずはありません。世界一危険な普天間基地に、「安全」が全く証明されていないオスプレイを配備し、県民の意思を踏みにじり、オスプレイの爆音をまき散らそうとする、このような非人間的判断と米兵犯罪は無縁ではありません。

日本政府は、基地の存在に起因して引き起こされた事件の本質を問い直し、日米地位協定を見直し、沖縄で幾度も幾度も繰り返される米軍犯罪を、厳重に阻止することを求めます。わたしたちは、在日米軍基地の75%が沖縄に集中していることを忘れることなく、沖縄の女性たちの思いに連なるものとなることを願いながら、日米両政府に以下の事を要請します。

- 被害者への謝罪と補償が適切になされること
- 被害者の自己責任を意味するような言説を許さないことを日本政府は明言し、被害者とその家族を守るためにあらゆる手段を講じること
- 加害者を日本の司法により裁き処罰すること
- 日米軍事同盟による日米地位協定を見直し、沖縄米軍基地を縮小・撤退させること。特に、普天間基地をすみやかに返還し、オスプレイの配備を撤回すること。また、米軍犯罪をなくすように根本的な取り組みを実施すること。

日本聖公会 正義と平和委員会 委員長 主教 渋澤 一郎  
日本聖公会 女性の課題に関する担当者 木川田道子  
吉谷かおる